

美しい森林づくり全国推進会議 財団法人 ボーイスカウト日本連盟が担う 美しい森林づくりへの活動

「美しい森林づくり全国推進会議」の構成団体で、
青少年の社会活動で野外を教育の場として行っている財団法人ボーイスカウト日本連盟。
今回、日本ボーイスカウト東京連盟、事務局長の堀江則博さんに
おもな活動や「美しい森林づくり全国推進会議」での役割などを伺いました。

野外を教育の場として、
青少年の育成に取り組み

財団法人日本ボーイスカウト日本連盟は、大正十一年四月に創立され、昭和一〇年七月に法人の許可を得て、現在まで活動を行ってきています。大きな目的は青少年の社会活動で、野外を教育の場としています。創始者はイギリス陸軍の軍人で、森林が青少年の健全な育成へとつながっていく教育の場だと考えたのです。

森林での活動の基本となるのはキャンプで、そこでは自分たちでテントをたてたり、かまどを作ったり炊事も行ないます。食事をつくるために、まず森の中から薪を拾ってきて、火を起こすことから始まります。そのためにはど



日本ボーイスカウト東京連盟、事務局長の堀江則博さん

んな薪がよく割れて火の付きが早いのか、どんな薪が固いけれど、火の持ち具合がいいのか学ぶ必要があります。最初はよく燃える松の木を使って、あとから桜のような丈夫な木を足していくなどの知識を頭ではなく、体験していくんです。そうやって身体で覚えたことは大人になっても忘れないものです。今のマンションなどの住居はガスよりも電気コンロが中心で、どんどん文明が進んでいけば無菌状態の素晴らしい社会ができあがるのかもしれないですね。しかしながら、ボーイスカウトでは社会に出てもさまざまなことに対応できる免疫力、抵抗力のある身体を作り上げるため、自然に接しているいろいろなことを学んでほしいと考えています。



先日、行われた「みどりの感謝祭」の式典に参加



1



2



3

- 1：昨夏、山梨県山中で行われたキャンプの開会式
- 2：スタッフが子供たちにキャンプのプログラムを説明
- 3：キャンプでがんばった子供たちを表彰

財団法人ボーイスカウト日本連盟

大正11年4月13日に創立され、昭和10年7月1日に財団法人に。日本におけるボーイスカウト運動を振興し、青少年の品性の陶冶および国際友愛精神の増進を図り、その健全育成に資することを目的としています。

木を植え、育てていくことは 多くのことを学べるチャンス

「美しい森林づくり全国推進会議」に関連す

ボーイスカウトでは技能を身につけるため多くの課目がありますが、たとえば「森林愛護章」には「森林愛護のための立て札などを作り、標語、ポスターを作って掲示すること」、森林を害する害虫と害獣を知り、その防除法を知ること、「植林の経験（新植、間伐、下刈り、手入れのすべて）を有すること」など、いくつかの条件が設けられています。その中の9項目をマスターするとバッジがもらえます。自然の偉大さを知り、うまくつき合っていく。ボーイスカウトには学ぶことが多いです。

る活動としては、緑の募金を行なっています。その還元金でつくった分収造林が奥多摩に二カ所ありまして、約二万坪の土地に杉や檜を植えました。最初は苗木がうまく根づかなかつたりと、さまざまな問題もありましたが、今は順調に木が育ってきています。それと平成四年に八王子のほうに広葉樹の林をつくりました。要請もあつて、檜の木やドングリの木を植えたんですが、当時は森林が川などの水をきれいにする役割を果たしていることがデータで証明されたばかりの頃だと思えます。木を植え、育てることによって多くのことを学べます。そんな経験を経て、森を育てるのは人を育てるよりも長い目で見ていかなければならないと感じています。記念植樹も定期的に行なってきましたが、私が子供の

頃と比べて、東京にはずいぶん緑が増えましたし、空もきれいになりました。推進会議の一環としては毎年五月に日比谷公園で行なわれている「みどりの感謝祭」の式典にも参加しています。

未来を担っていく世代の人たちには自然や人や社会を思いやる気持ちを持つて、努力していく大人になってほしいと思っています。そういう気持ちがあれば、いい社会は作れません。子供たちにとつていちばんの教育の場は学校ですが、ボーイスカウトは身体を使って野外でいろいろなことを体験するチャンスにあふれています。学校では学べないこともたくさん学べるのではないかと思います。